

困っているのは誰ですか？ - 答案から見つめ直す授業改善への一步 -



岡山県マスコット
「うらっち」

6月28日に、各学校へ岡山県学力・学習状況調査結果が返却されました。また、7月末には全国学力・学習状況調査の結果も返却されます。

調査結果をどのように受け止め、「子ども達の状況＝今までの指導」に向き合い、分析結果を基に、課題を焦点化し、すぐにやるべきことと長期的視野で解決を図ることを明確にし、それぞれに真摯に取り組んでいくことが、先生方に求められていることです。

校長先生から「調査結果が思わしくないから、授業をさらに工夫して、もう少し点が取れるように頑張っただけ。」と言われてたけど、クラスの子も達は、あんな長い問題文を読むことができないし、授業で教えたこともすぐ忘れるし、何から手を付けていいかわからないわ…。



岡山県マスコット
「ももっち」

県教委からは、全国調査に当たり、できるだけ自校採点をするよう依頼をしていました。自校採点をした学校は、手元に子ども達の答案のコピーが残っているはずですが、**子ども達の現在の状況を把握する最良のツール**と言えます。答案を見直すことで現在の取組を再確認し、授業改善を「一步先へ！」進めるべく活用するとともに、秋の定着状況確認テストにおける自校採点、結果分析にもつなげていくことが必要です。

授業改革推進チーム配置校の自校採点分析例を参考に、校内研修等の機会を活用して、今一度、各校で子ども達の答案を見直し、課題克服につながる取組を進めていきましょう。

全国学力・学習状況調査「小学校国語」

(正答の条件)

- ①「2 調査の内容と結果」の(1)と(2)の両方から、分かったことについて言葉や文を取り上げて書いている。
- ②【報告する文章】にふさわしい表現で書いている。
- ③書き出しの言葉に続けて、40字以上、70字以内で書いている。

無回答は2名のみ。字数40~70字は、ほとんどの児童がクリアできているなあ。

「公衆電話がどのような時に必要か」しか書けてないなあ。本文の「このことから」「このように」に続く文を要約して文章化する力が弱んだ…。

「~からです。」等の「なぜなら」を受け取文未表現ができてない。
「~たり、~たり」が不備な児童が18%いるぞ。



- 三 高橋さんは、「3 調査の結果をもとに考えたこと」の [] に「2 調査の内容と結果」の (1)と(2)で分かったことをまとめて書いています。 [] に入る内容を、次の条件に合わせ、書きましよう。
- (条件)
- 「2 調査の内容と結果」の(1)と(2)の両方から言葉や文を取り上げて書くこと。
 - 【報告する文章】にふさわしい表現で書くこと。
 - 書き出しの言葉に続けて、四十文字以上、七十文字以内でまとめて書くこと。なお、書き出しの言葉は字数にふくむ。

「どこで」「どのように」間違えたかを、解説資料の解答類型に当てはめながら全教員で分析し、発達段階に応じた指導の在り方を協議することで、学校全体での取組の方向性が定まり、授業改善のポイントが明確になります。この例のように、全員で、全問題を分析するパターンもありますが、設問毎に校内で分担を決め、学力向上担当者が中心となって分析結果をまとめ、共有化する方法など、各学校で工夫して取り組めそうですね。



県調査結果が返ってきたけど、国語、数学に比べて英語が課題だなあ。学力向上担当者の■■先生が中心になって、ちょっと対策を考えて、今度の職員会議で提案してくれないか？



県調査は自校採点を求められなかったから、答案コピーしていないし、社会担当の私が英語の調査結果を分析するなんて、さっぱり分からないし…。だからといって、学期末処理で忙しくしている●●先生(英語科)に頼むのもなあ～。でも、やらないといけないしなあ、困ったなあ…。



東京書籍から送付されたデータの中には、児童生徒の全設問の解答状況が、またWeb評価支援システムでは、実際に児童生徒が解答した設問に基づく準正答、誤答が確認できます。

岡山県学力・学習状況調査「中学校英語」

問題番号	出題のねらい	問題の概要	正答	1	○	32.3
5	単語(季節)を正しく書くことができる	日本語訳が示された英文において、空所(単語の最初の1文字は示されている)に当てはまる単語を記述する。	つづりの誤りが1文字ある場合	2	△	5.4
(1)			上記以外の誤答	3	×	38.3
④			無解答(無記入の場合)	4	×	24.0



「(s)season」という単語を書く問題の正答率が32.3%あ。Web評価支援システムで誤答を確認してみよう。え～、「seson」「seazon」って間違いや「spring」って答えている生徒がこんなにいるんだ…。●●先生は、単語テストをしていないのかな？ 職員会議で報告する前に、確認してみないといけないなあ。



Web評価支援システムのmatrix内にある学年・教科を選択し、小問別正答率を見ると確認できます。

正答率が3分の1!! どうしてがしら…。■■先生に、「クラス別解答状況一覧」で確認するように言われたから、学年主任の▲▲先生(国語科)と一緒に確認してみよう。

えっ! ショック…。××さん『season』は空欄だったのに『均等』って漢字はちゃんと書けている。国語はあんまり好きでなしって言ってたのに。私だって、小テストをして、答え合わせもして返却しているのになあ～。どうしたらいいんだろう…。

現状分析は「校内」で「自分の担当教科」を中心に行うことが多いかもしれませんが、課題解決に当たっては、他学年や他教科の先生方を巻き込んで、どのような形で進めていくのがベストかを明確にする必要があります。

例えば、この例にある単語が書けなかったからといって、やみくもに単語練習の量を増やしても成果が上がらないことは経験的に理解できるはず。生徒一人一人に、自分に合う学び方が発見できるよう、課題等の与え方を工夫するとともに、習熟に向けたサポートの在り方を探ることが求められています。

全国学力・学習状況調査の結果が各校に返却される予定日は夏休み中です。そのときになって焦ることがないように、まずは、県調査の結果を基に「誰が」「いつまでに」「何を」「どこまで」やり切るのかを明確にしておくことが必要です。

1年が「あっ!」という間に過ぎるなら、夏休みは「あ」という間に終わってしまいますからね。

